

事業の名称

寺子屋プロジェクト

〔事業責任者〕

（自治体等側）

茨城町・町長 小林 宣夫

（大学側）

茨城大学人文学部・教授 西野由希子

事業テーマ：地域の教育力の向上
自治体との連携
学術文化の推進

連携先

茨城町町長公室町民協働課

茨城町地域おこし協力隊

茨城県内地域おこし協力隊

茨城町小鶴商店街等地域のボランティアの方々

茨城大学教育実践サークル「千の星」

プロジェクト参加者

井坂美咲（茨城町地域おこし協力隊、本プロジェクトの企画・運営）

茨城大学教育実践サークル「千の星」（本プロジェクトの活動サポート）

茨城町および茨城県内地域おこし協力隊（本プロジェクトの活動サポート）

プロジェクトの実施概要

①プロジェクトの目的

茨城町では、他の地方都市と同様に人口減少や人口流出の課題に直面している。そのため、意欲と能力のある若者が地域で活躍する環境の実現が必要である。雇用の創出に加え、県内に立地する大学とともに地域活性化を図り、若者を惹きつける魅力ある地域をつくっていくことが重要である。

本プロジェクトでは、地域連携協定を結んでい
る茨城大学との連携をより強め、地域の方たちと
協働して、茨城町小鶴商店街内の空き店舗を「寺
子屋」とし再生させ、活用する。

この活動は以下の3点を目的とする。

- (1) 「寺子屋」という名称の、地域の拠点が生まれ、人々が集うことによる、商店街の活性化、にぎわい創出
- (2) 寺子屋の活動として、子どもたちの学習支援活動を行うことにより、茨城町に根づくひとづくり、人材育成
- (3) 地域の内外の方々と協働することによって新たなつながりが生まれ、その人的ネットワークが、今後さまざまな地域課題の解決に取り組んでいくための基盤となる。「寺子屋」が外に向かって開かれた交流・対話の場として、地域活性化を推進する

②連携の方法及び具体的な活動計画

まず、「寺子屋」として使用する空き店舗の清掃や整備、使用のための準備を行う。

子どもたちの夏休みに合わせ、8月ころから、「学習支援」の活動、「居場所」としての提供を開始する。そのために、近隣小学校等への案内、「学習支援」をサポートする茨城大学教育実践サークル「千の星」とのうちあわせ等を行う。

秋以降も、引き続き、子どもたちへの「学習支援」活動を継続して実施するとともに、「寺子屋」を拠点とした「地域活性化」のために、さまざまな活用方法を試行する。

初年度の活動のまとめとして、2～3月ころに、「寺子屋」での活動のまとめや、今後の活用方法について話し合う「ワークショップ」を企画し、協力者等の方々と次年度に向けた活動について検

討を行う。

③期待される成果

本プロジェクトは①で述べた3つの目的のために実施していく。その結果、さらに、以下のような成果が得られると考えている。

第1には、「寺子屋」での「学習支援」活動に協力をしてくれる茨城大学の学生や、教育実践サークルの学生たちにとって、実際の子どもたちと接し、教育実践の経験を積む場となり、それぞれの成長の機会となる。

第2に、「寺子屋」を、茨城県内の地域おこし協力隊など、さまざまな人々に活用してもらうことで、交流・対話の場となり、ここから新しい活動が生まれる。

第3に、「寺子屋」は、小学生・中学生・大学生・地域住民と幅広い年代の人々が、時間を共有できる「新しい場」を構築する。地域のにぎわいの創出とともに、地域の人々が改めて、これを契機に、つながりを強めることが期待される。

地域の活性化のためには、各地域にその地域ならではの「たまり場」や「コミュニティサロン」が存在し、地域を支えることが理想である。近隣・周辺地域の方々が「寺子屋」を1つの参考にしていただいて、それぞれの地域での「コミュニティサロン」を考えて行っていれば、本プロジェクトの成果がさらに広がりを持つことになる。

プロジェクトの実施成果

①活動実績

本年度は、当初の計画に沿って活動を進めることができた。

まず、「寺子屋」としての活動の準備を行った。

小鶴商店街の方々や県内の地域おこし協力隊の方たち等の協力も得て、空き店舗の清掃、壁等のペンキ塗りかえ、「学習支援」の会場、つまり、教室として使用するための備品等の整備等を行った。

小学校へのチラシの配布等によるPR活動を行い、8月から「学習支援」活動を開始した。



「寺子屋」外見【2016年7月】



ペンキを塗るなど、準備中の内部
【2016年7月】

8月【12日】

2. 4. 6. 9. 11. 13. 16. 18. 20. 23. 25. 27日
10時から20時

9月【3日】

18. 20. 28日
平日 17時から20時
休日 10時から20時

10月【4日】

5. 23. 29. 30日
平日 17時から20時
休日 10時から20時

11月【5日】

9. 14. 20. 23. 25日

平日 17時から 20時
休日 10時から 20時

12月【5日】

14. 16. 18. 21. 22日

平日 17時から 20時

休日 10時から 20時

1月【4日】

17. 21. 24. 28日

平日 17時から 20時

休日 10時から 20時

2月【9日】

6. 8. 14. 15. 20. 21. 22. 26. 27日

平日 17時から 20時

休日 10時から 20時

3月【12日】

5. 8. 10. 13. 15. 18. 21. 22. 26. 27. 29. 31日

平日 17時から 20時

休日 10時から 20時

名簿登録人数（子どもたち）

約 100 人

のべ参加者数

約 600 人

「学習支援」実施記録

子どもたちの夏休みに合わせ、8月に入ってから、プレオープンなどを経て、本格的に「学習支援」の活動、「居場所」としての提供を開始した。

その後、子どもたちや家族からの要望に応え、茨城大学教育実践サークル「千の星」の協力も得られたことから、9月以降も、引き続き、子どもたちへの「学習支援」活動を継続して実施することができた。

8月からの実施日は、計 54 日。登録した子どもたちが約 100 人、のべ参加者数は約 600 人になった。



《茨城新聞》【9月6日】

「寺子屋」での「学習支援」活動については、茨城新聞、東京新聞、読売新聞などでも取り上げていただいた。

3月18日には、8月からの活動を振り返り、今後の活用方法について話し合う「ワークショップ」を実施した。

この日は、茨城町職員、茨城町や他市町村の地域おこし協力隊、小鶴商店街の方々、「寺子屋」を応援して下さる一般の方など、15名が集まり、第1部として、井坂美咲さんから「寺子屋での活動報告」、西野から「みんなが主役のまちづくり 一楽しく「まち」をデザインするために」という講演を行い、他地域での「コミュニティカフェ」の事例などを紹介した。

その後、参加者で、「寺子屋」の今後の活用についてワークショップを行い、小鶴商店街や茨城町でのまちづくりについて、意見交換した。

②プロジェクトの達成状況

本プロジェクトは、当初の計画に基づいて活動を進め、順調に実施することができた。

「寺子屋」での「学習活動」支援については、子どもたちがどのくらい活用してくれるか未知数の中でスタートしたが、子どもたち本人からも、ご家庭からも大変に好評で、9月以降の継続を希望される声が多かったことから、その後の継続した活動へとつながった。

茨城大学教育実践サークル「千の星」との協働もうまく進めることができ、参加学生からは、子どもたちを支援することができる喜びや楽しさと、教育の実践活動の場を持つことができ、自分たちがさまざまな学びを得ているという評価をもらっている。

活動の中心となっている井坂さん、地域おこし協力隊の活動を支援し、地域活性化に取り組む茨城町、その両者に対して活動の助言やサポートにあたる西野の役割分担も計画通りに進めることができた。

③今後の計画と課題

本プロジェクトは、「寺子屋」の活動開始の一年として、大きな成果をあげたと言えるが、地域の活性化を推進していくためには、今後の継続した活動、活用方法の展開が重要である。

現在の「寺子屋」は、子どもたちへの「学習支援」活動を中心に進めているが、この活動を継続していくとともに、さらなる「寺子屋」の活用を図っていくために、責任をもって運営にあたるメンバーによる運営体制をつくっていく必要がある。本活動は、小鶴商店街の方々など、多くの賛同者、協力者を得ているので、これらの方々との

共同運営が望ましいと思われる。

コアになる運営者・運営チームを置き、地域の方々は、ここをどのように使用、活用していきたいのか、意見交換を行って、さまざまな試みに取り組んでみてほしい。

継続して「寺子屋」の活用を進めていく中で、茨城大学の学生や教職員との協働も継続されることが期待される。

そして、この「寺子屋」のような取り組みが、茨城町、あるいは他市町村の各地域で、自主的に立ち上げられ、地域のコミュニティの拠点となって、住民主体の地域活動がより推進されることを願っている。



ワークショップ【3月18日】